

1953年の北海高潮 (North Sea Flood 1953)

昨日のロンドン便り その98 「テムズバリアによるロンドンの洪水対策」のレポートに出てくる北海高潮(North Sea Flood 1953) について、以下の様に補足説明いたします。

英国気象台のホームページ情報によりますと、大西洋で発生した強い低気圧 (**Deep Atlantic Depression**)は、1953年1月31日の夜から2月1日未明にかけてスコットランドから北海を下図の様に南下し、比較的浅い北海の海面を平均で 18.4ft (5.6m) 持ち上げそのまま南下、テムズ川河口辺りと対岸のオランダ、ベルギーの陸地がせり出し狭くなった海峡に達し、折からの満潮と大潮が重なり最悪な超大型高潮 (**Tidal Surge**) となりテムズ川を遡り河口一帯や対岸のオランダやベルギーにも多大な被害を発生させた訳です。

その強い低気圧は、964hPa、風速 126mph (201km/h) で秒速で 56m/s で日本式に言えばおそらく強力な台風と言えるのではないのでしょうか。当地ではこの様な強い低気圧のことを **Gale, Storm, Deep Depression** 等と呼び、ハリケーンや台風(台風)とは呼びません。



Storm surge; depression originating in the Atlantic



Depression passes Northern Scotland and enters the North Sea



Surge moves down the East Coast towards the Thames estuary



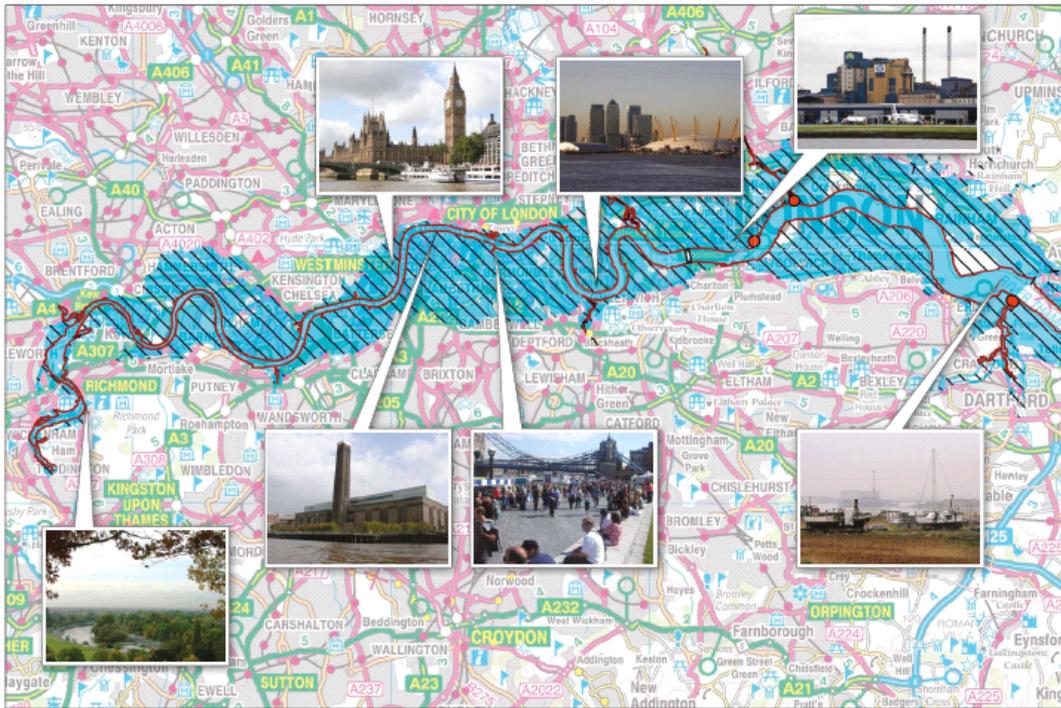
Surge tide approaches the Thames estuary



Surge tide enters the Thames estuary

1953年の北海高潮のルート

北大西洋から強い低気圧が海面を持ち上げながらスコットランドを通過し北海を南下、狭い海峡にぶつかりテムズ川河口に進入する様子が良く判ります。(出所：英国環境庁)



テムズ川に河口から高潮が遡った場合の被害予想エリア（出所：英国環境庁）



現在のテムズ川の高潮防衛施設、最後の砦がテムズバリアです。（出所：英国環境庁）

当時の強い低気圧の暴風雨範囲がどれくらいの直径だったのか判りませんが、中心気圧が964hPaや風速からして、間違いなく日本で言う、大型台風に匹敵したのではないかと思います。（了）